

子ども・若者の意識と行動に関する調査

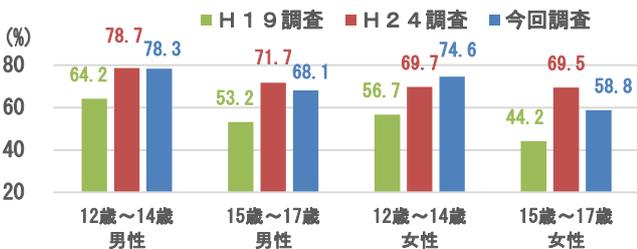
報告書 概要版

① 調査の概要(P1~P4)

地域・対象	山梨県全域の12歳~30歳の男女 (平成30年4月1日現在の満年齢)	抽出方法	18歳~30歳：層化二段無作為抽出法
標本数	12歳~17歳(1,000人)、18歳~30歳(2,000人)の3,000人		12歳~17歳：県内中学校、高等学校を無作為に抽出し、学校ごとに在校生を無作為に抽出
調査期間	平成30年10月16日~平成30年11月5日	回収結果	回収数 1,740 (回収率 58.0%)

② 学校に関する事項(P5~P13)

I 先生は、あなたのことをわかってきているか(理解意向)



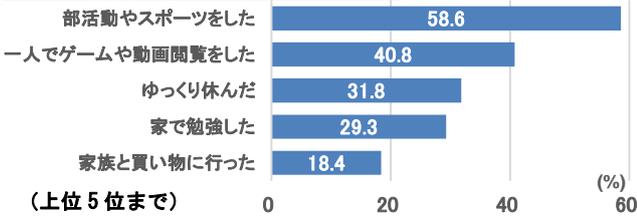
・男女年齢層別に過去調査と比較すると、「思う」「どちらかといえば思う」の「理解意向」が高い状態であるが、15歳~17歳女性においては低くなっている。

II 学校に行きたくないと思ったことがあるか(不登校意向 単位:%)

	いつも思っている	思ったことがある	思ったことがない	不登校意向
12歳~14歳男性	2.9	42.5	54.6	45.4
15歳~17歳男性	7.7	54.6	37.7	62.3
12歳~14歳女性	7.1	48.8	44.1	55.9
15歳~17歳女性	15.0	60.4	24.6	75.4

・男女年齢層別にみると、「いつも思っている」「思ったことがある」の「不登校意向」は、12歳~14歳男性において低く、15歳~17歳女性において高くなっている。

III 土・日曜日に、おもに何をしておすごしたか



・前回調査と比較すると、「一人でゲームや動画閲覧をした」割合が大きく伸びている。

③ 将来像に関する事項(P14~P22)

I 将来、子どもがほしいか



・前回調査と比較すると、子どもが「ほしい」は減少している。

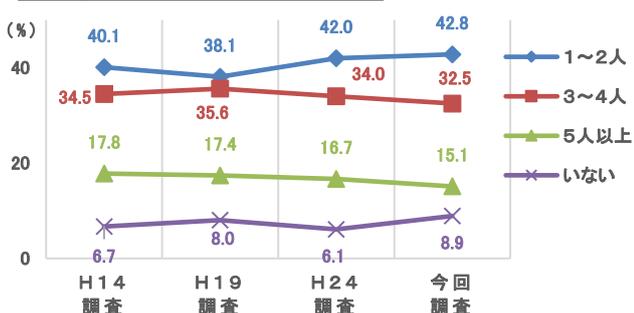
II どうして子どもがほしくないのか【女性】(上位4位まで)



・「ほしくない」と回答した人に、「どうして子どもがほしくないのか」と聞いた。女性の場合、過去調査と比較すると、「自分の時間がなくなってしまうから」が増加している。

④ 家族・友人関係に関する事項(P23~P34)

I 心を開いて話せる親友が何人いるか



・過去調査と比較すると、親友が「いない」「1~2人」が増加し、「3~4人」「5人以上」は、やや減少している。

II 悩み事があったとき、誰に相談するか(上位5位まで 単位:%)

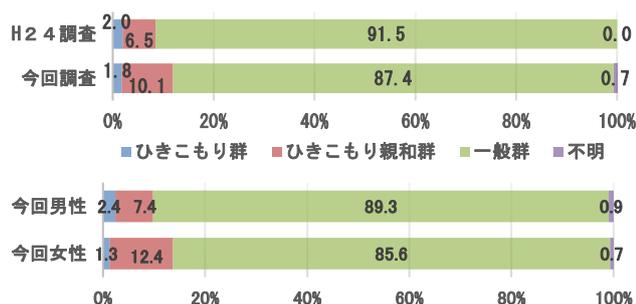
	親友	お母さん	同級生	お父さん	恋人
H14調査	61.2	30.5	24.7	7.9	9.9
H19調査	55.8	35.4	25.2	8.7	8.0
H24調査	53.0	37.3	19.7	10.1	10.6
今回調査	42.2	41.9	20.1	12.1	9.9

	いない	1~2人	3~4人	5人以上
親友の数(全体)	8.9	42.8	32.5	15.1
親友の数(相談しない人)	34.1	47.6	15.9	2.4

・過去調査と比較すると、「親友」は減少し、「お母さん」「お父さん」は、やや増加。
・「相談しない」と回答した人は、全体と比較すると「親友の数」が少ない傾向にあった。

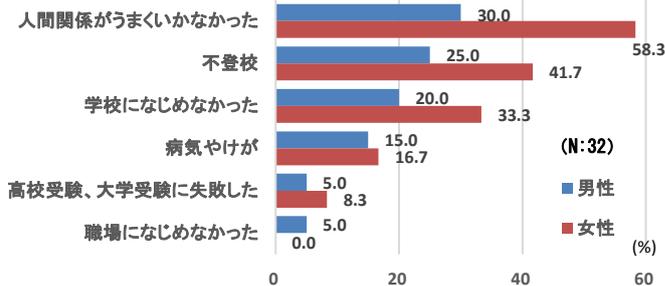
⑤ ひきこもりに関する事項(P35～P50)

I 「ひきこもり群」「ひきこもり親和群」「一般群」の割合



- ・「ひきこもり群」は、前回調査とほぼ同じ割合。(H27内閣府調査の「ひきこもり群」の割合(1.6%)とも、ほぼ同じ割合。)
- ・「ひきこもり親和群」の割合は、前回調査より少し増加している。
- ・女性の方が「ひきこもり親和群」の割合が高くなっている。

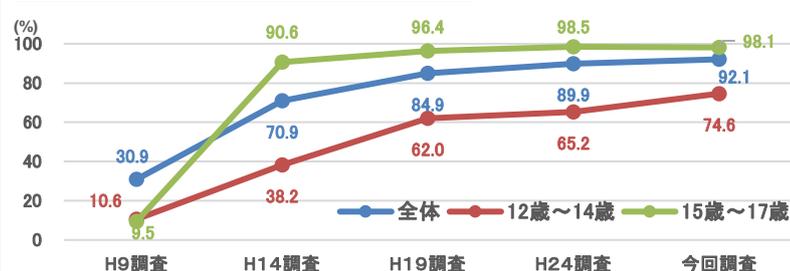
II 外出しない状況になったきっかけは何か(ひきこもり群)



- ・男性、女性とも「人間関係がうまくいかなかった」が最も多くなっている。
- ・男性より女性の方が多くの項目で割合が高くなっている。女性より男性の方が「職場になじめなかった」割合は高くなっている。

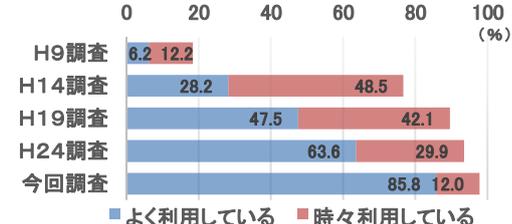
⑥ インターネット(SNS、動画サイト、オンラインゲームなど)の利用実態に関する事項(P51～P60,P45)

I 自分のスマートフォン・携帯電話を持っているか



- ・前回調査と比較すると、12歳～14歳(中学生層)の所持率が大幅に増加し、およそ4人のうち3人が、スマートフォン・携帯電話を所持している。

II インターネットを利用しているか



- ・過去調査と比較すると、「よく利用している」は、調査を重ねるごとに大幅に増加している。

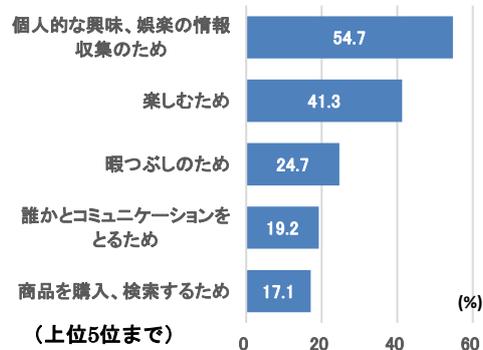
III 一日どのくらいインターネットにアクセスするか(学校や仕事のある日 単位:%)



	していない	30分以内	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間以上	使えない設定
H24調査	9.8	23.4	22.7	22.1	14.2	6.2	1.1
今回調査	2.4	7.8	14.2	25.3	33.9	15.6	0.3

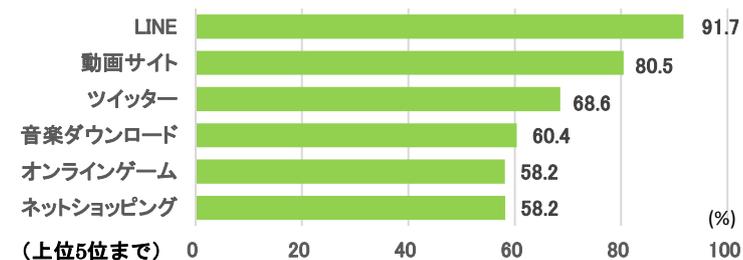
- ・一日に「2時間～3時間未満」が最も多く、33.9%となった。前回調査と比較すると、全体的にインターネットにアクセスする時間が増加している。
- ・*どの年齢層においても「2時間～3時間未満」が最も多くなっている。

IV インターネットを利用するおもな目的は何か



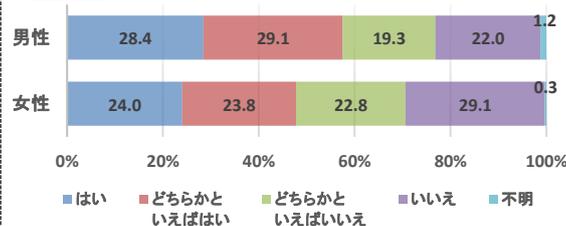
- ・「個人的な興味、娯楽の情報収集のため」が、54.7%と最も多くなっている。
- ・「楽しむため」は41.3%で、前回調査の15.2%から大きく伸びている。

V インターネットを使ってアクセスしたことがあるアプリやサイトは何か



- ・「LINE」(91.7%)、「ツイッター」(68.6%)などのSNSが多く利用されている。
- ・「オンラインゲーム」の利用は、男性71.9%、女性45.8%と、男性が利用している割合が高くなっている。

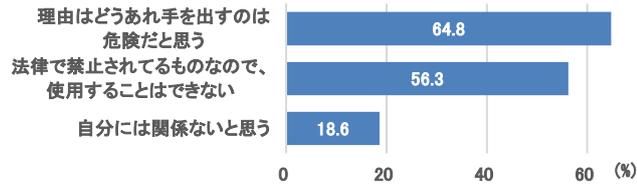
VI インターネットがあれば、外に出なくても楽しく過ごすことができるか



- ・男女別にみると、「はい」「どちらかといえはい」を合わせた回答は、男性57.5%、女性47.8%で、男性は「インターネットがあれば、外に出なくても楽しく過ごすことができる」意向が、半数を超えている。

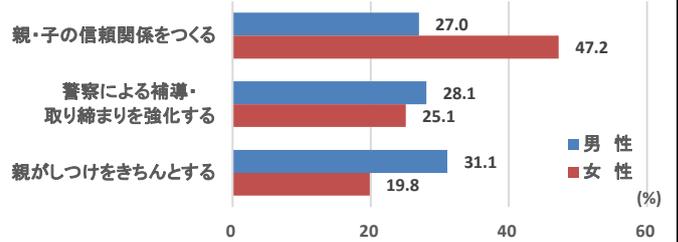
⑦ 青少年非行に関する事項(P61～P66)

I 覚せい剤、大麻、危険ドラッグなどの薬物を使用することについて、どう考えているか(上位3位まで)



・「理由はどうあれ手を出すのは危険だと思う」が64.8%と最も多かった。一方、「自分には関係ないと思う」と考えている割合が18.6%あった。

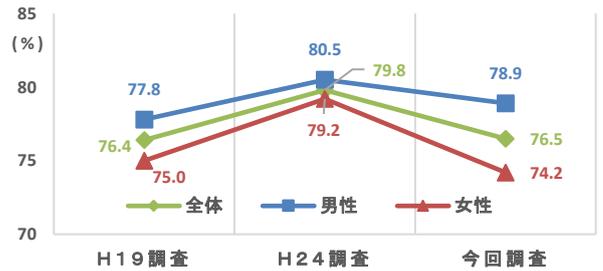
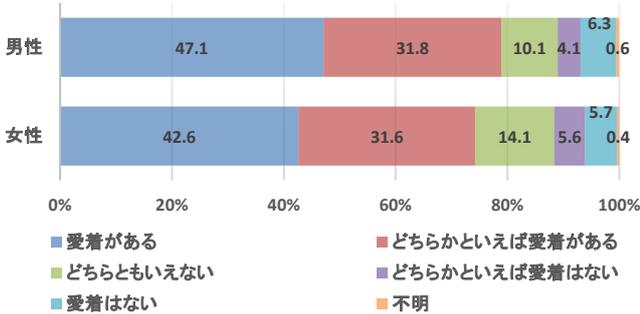
II 非行をなくすためには何が必要か(上位3位まで)



・全体では「親・子の信頼関係をつくる」、男性は「親がしつけをきちんとする」、女性は「親・子の信頼関係をつくる」が最も多かった。

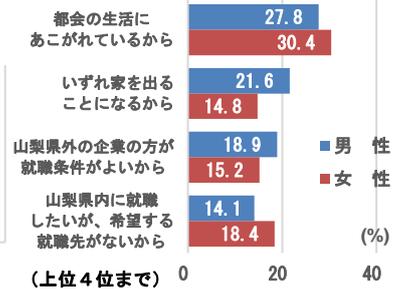
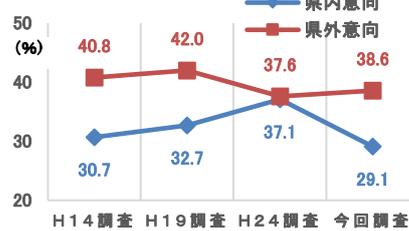
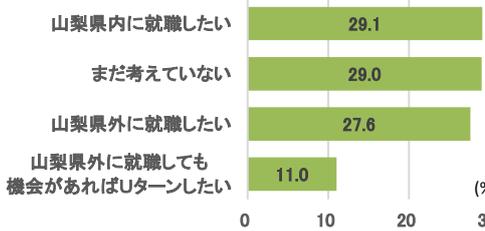
⑧ 郷土等に関する事項(P67～P75)

I 今住んでいる地域に愛着を感じるか



・「愛着がある」「どちらかといえば愛着がある」の「愛着がある意向」は、女性(74.2%)より男性(78.9%)の方が高い。前回調査に比べるとやや低くなっている。

II 将来どこに就職したいか/山梨県外に就職したい理由

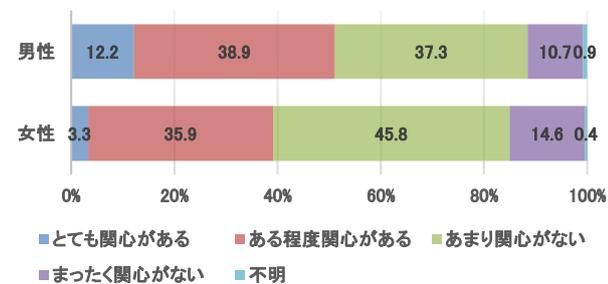


・「県内に就職したい」の「県内意向」と、「県外に就職したい」「機会があればUターンしたい」の「県外意向」は、前回調査では、ほぼ同じ割合となっていたが、今回調査では「県外意向」が高まっている。

・県外に就職したい理由は、「都会の生活にあこがれているから」が最も多かった。

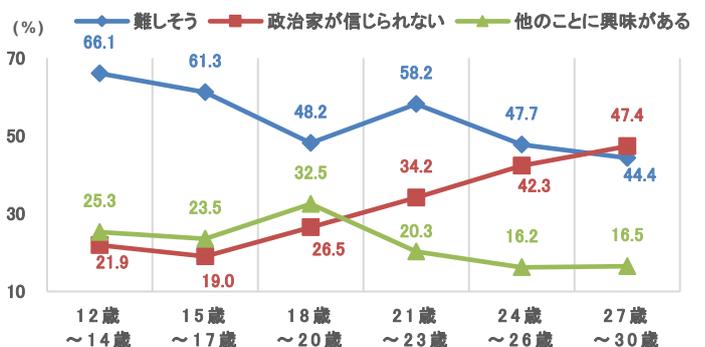
⑨ 社会参加活動に関する事項(P76～P81)

I 国や地方の政治にどの程度関心があるか



・男女別にみると、「とても関心がある」「ある程度関心がある」の「関心がある意向」は、男性が51.1%、女性が39.2%で、女性よりも男性の方が政治への関心が高くなっている。

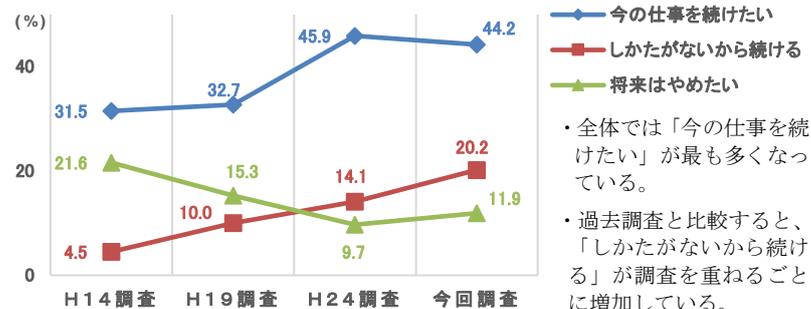
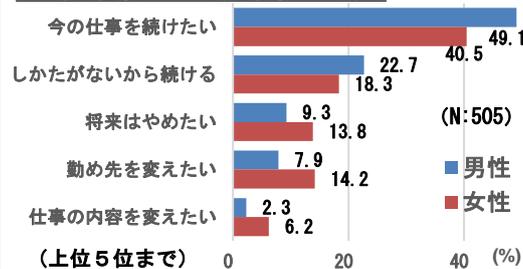
II 政治に関心のない理由は何か(上位3位まで)



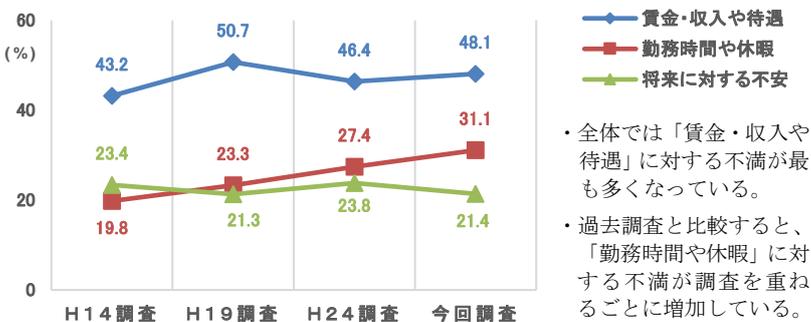
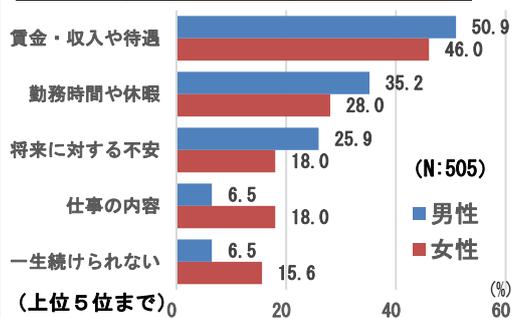
・年齢別にみると、「難しそう」は、12歳～14歳と15歳～17歳が高く、年齢層が上がるにつれて低くなる傾向がある。「政治家が信じられない」は、27歳～30歳が高く、年齢層が上がるにつれて高くなる傾向がある。

⑩ 職業に関する事項(P82～P86)

I 今の仕事について、どう考えているか

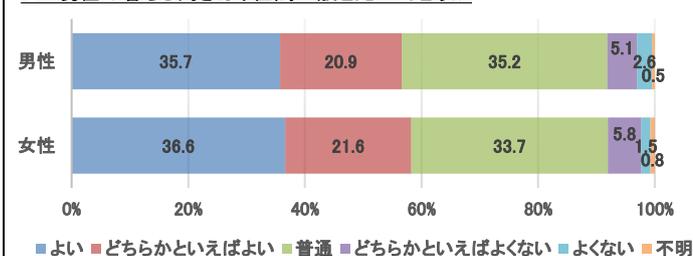


II 今の仕事に対して不満に感じていることは何か



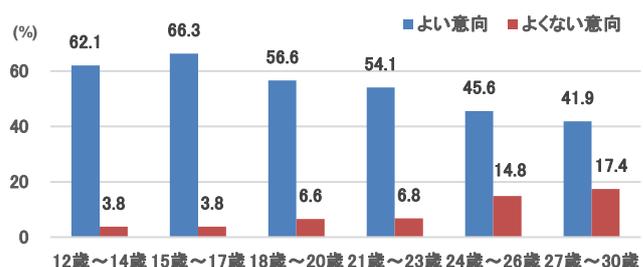
⑪ (新) 子どもの貧困に関する事項(P87・P88)

I 現在の暮らし向きは、世間一般と比べてどうか



・「よい」「どちらかといえばよい」の「よい意向」は男性が56.6%、女性が58.2%で、ほぼ同じであり、どちらも「よい意向」が半数を上回っている。

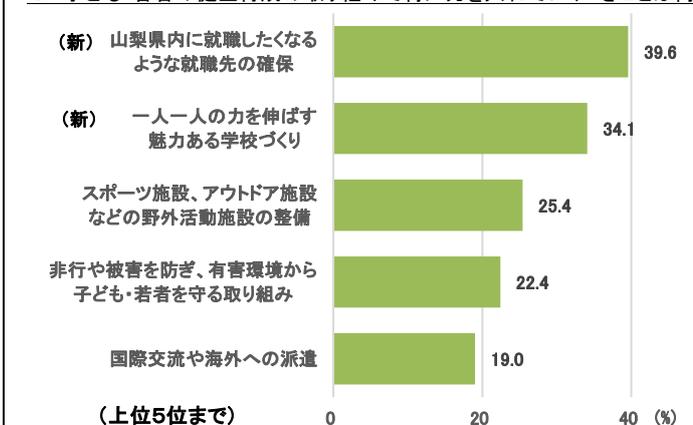
「よい意向」と「よくない意向」年齢層別



・「よい意向」と「よくない」「どちらかといえばよくない」の「よくない意向」を年齢層別に比較すると、年齢層が上がるにつれて「よくない意向」の割合が増加している。

⑫ 県政に関する事項(P89・P90)

I 子ども・若者の健全育成の取り組みで特に力を入れていくべきことは何か



・今回調査から選択肢に取り入れた「山梨県内に就職したくなるような就職先の確保」(39.6%)、「一人一人の力を伸ばす魅力ある学校づくり」(34.1%)の2項目が上位となっている。
・過去調査と比較すると、「国際交流や海外への派遣」の割合が、減少している。

